

特集

ちかくかびん
知覚過敏

「ズキン!」、「キーン!」ある日突然やってくる『知覚過敏』
今までは何でもなかったのに、冷たいものを飲食したり、歯ブラシ
の毛先が当たったり、風が当たるだけで「歯がしみる(痛む)」症状
が出たら、それはまさに、知覚過敏かもしれません。

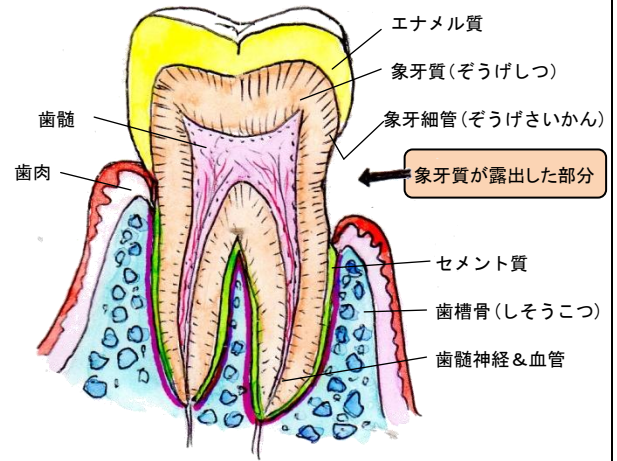
知覚過敏のメカニズム

右図は歯周組織です。知覚過敏のメカニズムは以下の通りです。

1: 何らかの原因によってエナメル質やセメント質が傷つき削れ、象牙質が露出します。(知覚過敏はエナメル質がもともと薄い、またはほとんどない歯の根元部分で起こることがほとんどです)

2: 露出した象牙質が冷たいものや歯ブラシ、風などによって刺激を受け、象牙細管を通じて歯髄神経から脳に伝わり、「キーン!」、「ズキン!」といった歯がしみる症状が出ます。

※エナメル質が削れ、象牙質が露出したからといって常に「歯がしみる」知覚過敏の症状が出るわけではありません。また、象牙質が露出しているにもかかわらず激しい痛みを感じない場合もあります。



原因は象牙質の露出だった!?

原因は色々ありますが、共通していることは、何らかの原因でエナメル質やセメント質が削れ、象牙質が露出していることです。

原因1 ブラッシング方法に問題あり!?

歯ブラシ(特に硬い歯ブラシ)で歯磨きをした結果、エナメル質が傷つき、削られてしまいます。エナメル質はとても堅いので数回”ゴシゴシ”と力任せに歯磨きをしても削れるものではありませんが、日々の積み重ねによって強固なエナメル質も傷つき、削られてしまう可能性があります。

原因2 歯周病や歯肉炎が原因!?

歯周病になり歯肉が後退する(歯茎が下がる)ため。

原因3 歯ぎしり&噛み合わせが悪いから!?

歯ぎしりで歯に強い力が加わると、エナメル質の薄い部分が破壊されます。また、噛み合わせが悪いと、一部のエナメル質に過大な力が加わるため、エナメル質を傷つける可能性が高くなります。

知覚過敏の症状

- ・ 冷たい(温かい)飲食物
 - ・ 甘いもの
 - ・ 歯垢(プラーク)
 - ・ 歯ブラシ
 - ・ 風
 - ・ 酸
- これらの刺激が加わり、
「ズキン!」
「キーン!」
といった歯がしみる症状が出ます。



原因4 歯科医院での治療後(歯石除去後)に!?

歯肉が後退しても歯石が露出した象牙質を覆っている場合、直接、象牙質に刺激が加わらないため、知覚過敏の症状が出ませんが、歯科医院で歯石を除去すれば象牙質が露出するため知覚過敏の症状が出やすくなります。

では、歯石を除去しない方が良いのでは?と思われる方もいるかもしれませんが、歯石は歯周病や虫歯の大きな原因になってしまうので、付着したら早めに、また定期的に除去しなければなりません。

原因5 虫歯が原因!?

虫歯になりエナメル質に穴が開き、象牙質が露出すると当然、歯がしみる知覚過敏の症状へ繋がります。虫歯が原因ではない場合は、「歯がしみる」症状が一時的なものに対し、虫歯が原因の場合は継続的に痛みを伴います。

原因6 酸が原因!?

日頃口にしている飲食物には酸が入っているものが多く、普通の食生活を送っているだけで、知らないうちにエナメル質を溶かしてしまい、その結果、象牙質が露出してしまう場合があります。

知覚過敏かな・・・?と思ったら

まずは歯科医に行って診察を受けることが大切です。知覚過敏で症状が出ているのか、それとも虫歯等でしめているのかを診てもらい、適した治療を行ってもらいましょう。歯科医院では以下のような治療を行う場合があります。

1. 薬の塗布・コーティング材 露出した象牙質を薬やプラスチックの充填材で覆い、症状を抑えます。
2. ナイトガード(マウスピース) 原因の一つと考えられる「歯ぎしり」を防止することで、エナメル質の破壊を防ぎます。
3. 歯周疾患の治療 知覚過敏の原因が歯周疾患による象牙質の露出の場合は、歯周疾患の治療が行われます。
4. 消炎鎮痛剤の内服 痛みがひどい場合には「消炎鎮痛剤」を服用することで一時的に痛みを抑えることができます。
5. レーザー治療 露出した象牙質にレーザーを照射することで症状を軽減することが期待できます。
6. 神経を抜く 上記の治療を行っても改善の見込みがない場合などは、歯の神経を抜く場合もあります。

皆様、明けましておめでとうございます。素晴らしい新年をお迎えのことと存じます。

今年1年の皆様方の御多幸を心よりお祈り申し上げます。

私共は1月24日に夫婦揃って本を出版させて頂くこととなりました。

悦秀は昨年「気分は爽快後遅走サンデー」シリーズ第6編に続き、癌闘病とV字回復に的をしぼった、読みやすい「走って治すぞ、ガン闘病」を上梓しました。

美智子は歯や口腔周囲をよりよく保つことがアンチエイジングにつながることを、実例を交えながら説明した「歯と笑顔の法則」を出します。徳間書店からですので、よろしかったら御覧になって下さいませ。



理事長コラム(六)

生涯現役を目指して

年が明けました。健やかに年を重ねることはいくつになっても嬉しいものです。私は今年の四月で六十九歳になりますが、歯科の小手術では、まだまだ不安は全くありません。四十年余にわたり口腔外科の第一線を歩んできた経験と、日頃、市民マラソンで鍛えた体力がそう思わせていると思います。一方、私の旧知の同世代の歯科医師が、歯科医院を閉院したり、御子息に譲る話をよく聞くようになりました。それぞれの事情でその是非について言及する気持ちは毛頭ないですが、少し気になったことがありました。昨年の大学同期会に参加したのですが、家督を息子に譲った級友が、いささか寂しそうに話していたことです。親から歯科医院を継ぎ、それをまた息子さんに繋ぐのですから「家」としては、これほど目出度いことは

ないと思うのですが、仕事や職場を奪われた気分になったのではないのでしょうか。定年後は健康、経済力および生き甲斐の三点セットが必要とされますが、そのうちの生き甲斐が減退したからではと思っています。私は、人間は生涯働き続けるべきものと思ってきました。同級生の院長も同意見です。幸い、私共二人の娘は医師になりましたので、「歯科医院を譲れ」とは言われません。これはある意味では、ハッピーなことだと思っています。当院から三十分以内の都区内に住む娘たち一家の子育て支援をしつつ、心身ともに元気な親の背中を見せ続けたいと願っています。新年に際し、改めてその思いを強くした次第です。

